

論文紹介：高齢者事故などに関する心理学

福島 拓実 (22211321tf@tama.ac.jp)

1. はじめに

高齢者による多くの犯罪や事故が増加してきている。その中で、高齢者が考えている心理がどうなっているのかを考え、思考しながら述べていく。どのような考えで、どのような気持ちで普段運転や犯罪を行っていることに疑問を持っています。

2. 問題と目的

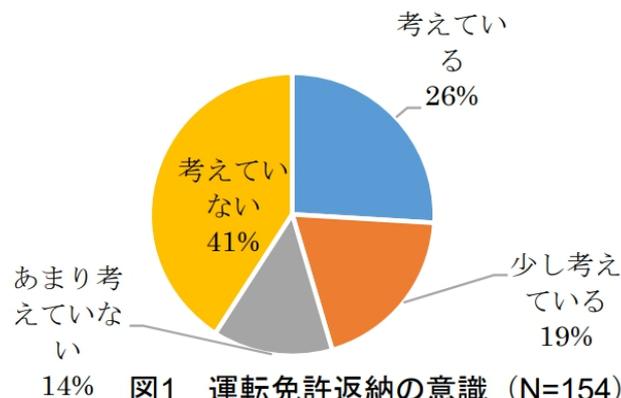
近年、高齢者による社会的迷惑行為、犯罪、交通事故が増加している現状がある。毎日のようにテレビをみていると、高齢者の交通事故や犯罪が多くなってきていると感じている。一般交通道路における加害者としてのドライバーの過失運転に関連した事故を扱っています。そのなかで、高齢者ドライバーの心理学的な問題が気になりこの論文を選びました。

3. 方法

高齢運転者の運転の実態と意識を探るため、盛岡運転免許センターで免許更新に来訪した70歳以上にアンケートを10日間行った。質問項目は、普段の運転行動、自分の運転評価、運転免許返納意識、代替移動手段の利用評価などの基本的な属性と自由回答となっている。

4. 結果

警視庁の資料では、75歳以上の高齢者ドライバーの事故はドライバーとその他のドライバーに違いなく、車両単独事故でも工作物への衝突が高齢ドライバーに多い事故であったことがわかった。ブレーキとアクセルの踏み間違えやハンドル操作の不適が多くあり、いずれも交差点での事故には関係していないものがあつた。属性として、男性は72%、女性は28%であった。運転免許保有者は、高齢者では男性が多くいる。運転免許返納後の生活に対する意識が大きくあり、8割が不安と回答している例がある。通院、運転の楽しみ、生活上での必要不可欠など多くの理由が考えられており、問題視されている。



5. 考察

紹介する論文の結果からどのようなことがいえるのかについて書く。仮説は合っていたのか異なっていたのか、なぜそうなったのかについての見解をまとめる。

6. おわりに

高齢者の運転は、運転免許を返納を考えている人は多くないが、運転免許を返納しても特に困らないなどの返納意識も高かった。運転の自己評価が低いと運転免許返納意識が高くなる。このため、高齢者講習等で適切な認識をさせることが運転免許返納を進めるために必要な認知症などがある者のリスク学習プログラムの開発は今後の課題と考えられている。運転頻度が低い者は、運転免許返納意識が高い。従って、周囲の者が協力したり、公共交通機関の利便性を上げることが高齢者に運転しなくてもよい環境を整えることに必要である。高齢者の安全なモビリティの確保には、運転免許返納の場合は代替交通の充実と、やむを得ず運転継続の場合は車の安全機能高度化の2つの方向があると考えられている。

7. 引用文献

警察庁交通局運転免許課：平成27年版

鈴木春男：高齢者ドライバー事故の実態と対策

元田良孝、宇佐美誠史・堀沙恵(2017)高齢者の運転評価と運転免許返納意識に関する研究・交通工学論文集・3(2), B_1-B_5.